

富山高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	英語表現Ⅲ
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0122		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	商船学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Mastery Drills for the TOEIC TEST L&R TEST (テキストには書き込みをしないこと。ノートを必ず用意する)				
担当教員	守田 卓哉				
<b>到達目標</b>					
TOEIC TEST に出題される Part 5 & Part 6に出題される英文法問題に十分に対応することができる知識を身につけることを目標とする。その目標を達成するためには、家庭で授業内容の復習をすることが必須である。					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 文法構造理解	文法項目にあげられている文法事項に関し、そのシステムを理解し、関連する問題を正確に解答できる	文法項目にあげられている文法事項に関し、そのシステムを理解し、関連する基本問題を正確に解答できる	基礎的な文法構造システムの理解が不十分なため、基礎的問題を正確に解答できない		
評価項目2 文法運用能力	既習文法項目に関する知識を用いながら、複合的な問題に関しても正確に解答することが出来る	複合的な問題に関しても、ある程度、正確に解答することが出来る	既習文法項目が定着していないために複合的な問題に関しては対応することが出来ない		
評価項目3 語彙力	TOEICによく使われる単語・表現を教科書の例題及び問題を通し、十分に習得している	TOEICによく使われる単語・表現を教科書の例題及び問題を通し、ある程度、習得している	習得意欲の不足のためにTOEICによく使われる単語・表現を習得していない		
評価項目4 授業への取り組み姿勢	積極的に授業参加し教室全体の学習意欲を高め、協調性を持って能力の向上を図っている	協調性を持って能力の向上を図っている	協調性に欠け、授業の進行を妨げたり、他学生の学習を阻害している		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
<b>教育方法等</b>					
概要	全員参加型授業とは、多彩な形式の問題に取り組みながら疑問に関する質問等を積極的に発信することにより自己の英語基礎力を高めることを目標としている。授業を通し、TOEICの Part 5 & 6における英文法の出題傾向を分析する。この教科書の目標を達成するためには家庭で授業内容の復習が必須である。授業で使われたビジネス用語(単語・熟語)は何度も見直し、覚えていく必要がある。				
授業の進め方・方法	通年：教師単独による全員参加型授業(質疑応答型)				
注意点	教官の指示に従い、授業中は集中し、問題に取り組むこと。評価が60点に満たない場合は、不認定となる。真面目な学習態度で授業に臨めば評価が60点以上になるような考查が出題されるので、しっかりと授業に取り組んでほしい。基本的に追認試験は行わないが、正当な理由があれば願出によって追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた学生はその評価を60点とする。				
<b>授業計画</b>					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス & Day 1	授業の目標を理解する。「主述の一致」に関する問題演習。	
		2週	Day 2	「品詞」に関する問題演習。	
		3週	Day 3	「修飾」に関する問題演習。	
		4週	Day 4	「代名詞」に関する問題演習。	
		5週	コラム&英文法講座	p.26, p.27, p.40, p.41のコラム及び「時制」に関する英文法講座。	
		6週	Day 5	「現在形・現在進行形」に関する問題演習。	
		7週	Day 6	「過去形・過去完了形」に関する問題演習。	
		8週	中間考査	Day 1～Day 6に関する確認テスト：解釈、単語・表現等様々な形式で既習事項が出題される。また、コラムや英文法講座での内容も出題される。	
	2ndQ	9週	Day 7	中間考査考察後、「未来のことを表す表現」に関する問題演習。	
		10週	Day 8	「接続詞」に関する問題演習。	
		11週	Day 9	「前置詞」に関する問題演習。	
		12週	コラム&英文法講座	p.54, p.55, p.72のコラム及び「態」に関する英文法講座。	
		13週	Day 10	「態」に関する問題演習。	
		14週	コラム&英文法講座	p.73のコラム及び「動名詞・不定詞」に関する英文法講座。	
		15週	期末試験	Day 7～Day 10に関する確認テスト：解釈、単語・表現等様々な形式で既習事項が出題される。また、コラムや英文法講座での内容も出題される。	
		16週	Review & 成績評価	期末考査結果考察後、成績評価に関する総評。	
後期	3rdQ	1週	Day 11	「動名詞」に関する問題演習。	
		2週	Day 12	「不定詞」に関する問題演習。	
		3週	Day 13	「使役動詞」に関する問題演習。	
		4週	Day 14	「自動詞・他動詞」に関する問題演習。	
		5週	コラム&英文法講座	p.86, p.87のコラム及び「比較」に関する英文法講座。	
		6週	Day 15	「比較」に関する問題演習。	

4thQ	7週	review	Day 11 ~ Day 15 に関する review
	8週	中間考査	Day 11 ~ Day 15 に関する確認テスト：解釈、単語・表現等様々な形式で既習事項が出題される。また、コラムや英文法講座での内容も出題される。
	9週	Day 16	中間考査結果考察後、「関係詞 1」に関する問題演習。
	10週	Day 17	「関係詞 2」に関する問題演習。
	11週	Day 18	「仮定法」に関する問題演習。
	12週	Day 19	「分詞」に関する問題演習。
	13週	Day 20	「その他」に関する問題演習。
	14週	review	Day 16 ~ Day 20 に関する review
	15週	期末試験	Day 16 ~ Day 20 に関する確認テスト：解釈、単語・表現等様々な形式で既習事項が出題される。また、コラムや英文法講座での内容も出題される。
	16週	Review & 成績評価	期末考査結果考察後、成績評価に関する総評。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	-20	0	0	80
基礎的能力	100	0	0	-20	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0